

Yuragawa River Story

映像 ミュージアム

大江高校 × 京都工芸繊維大学

「由良川リバーストーリー」は、大江町の風土・歴史や由良川とともにある生活など、地域の「昔と今」に様々な手法を通して触れながら、映像を中心とした技術でそれらを保存し、その活用と共有の場を検討・実践する高大連携プロジェクトです。

ドキュメント 2016-2017

「由良川リバーストーリー」では、8ミリフィルムや写真など主に個人が20世紀に撮影・記録した映像群（個人映像）を公共財と位置づけ、そこに映し出された、大きな歴史に回収されない貴重な個々の物語に価値を見いだしながらプロジェクトを展開してきました。それらの個人映像が現代のコミュニティの中で新しい物語を紡ぎ出すための手段となり得るかを3つのプログラムを通じて考察し、その成果を「映像ミュージアム」の場で発表する機会に恵まれました。2017年度は、大学として残念ながら継続的な取り組みを行うことができませんでしたが、2018年度に再開いたします。引き続き映像と個人の物語に着目すると同時に、地域の集合的な記憶も対象にプロジェクトを進める予定です。プロジェクトを継続させていくために必要な映像のご提供を改めてお願いすると共に、個人・地域の物語の保存・活用のあり方について引き続きご意見を頂戴できれば幸いです。

京都工芸繊維大学 池側研究室

「由良川リバーストーリー」記録パンフレット企画・制作
京都工芸繊維大学 池側研究室

「映像ミュージアム」企画・主催
京都工芸繊維大学 池側研究室
京都府立大江高校

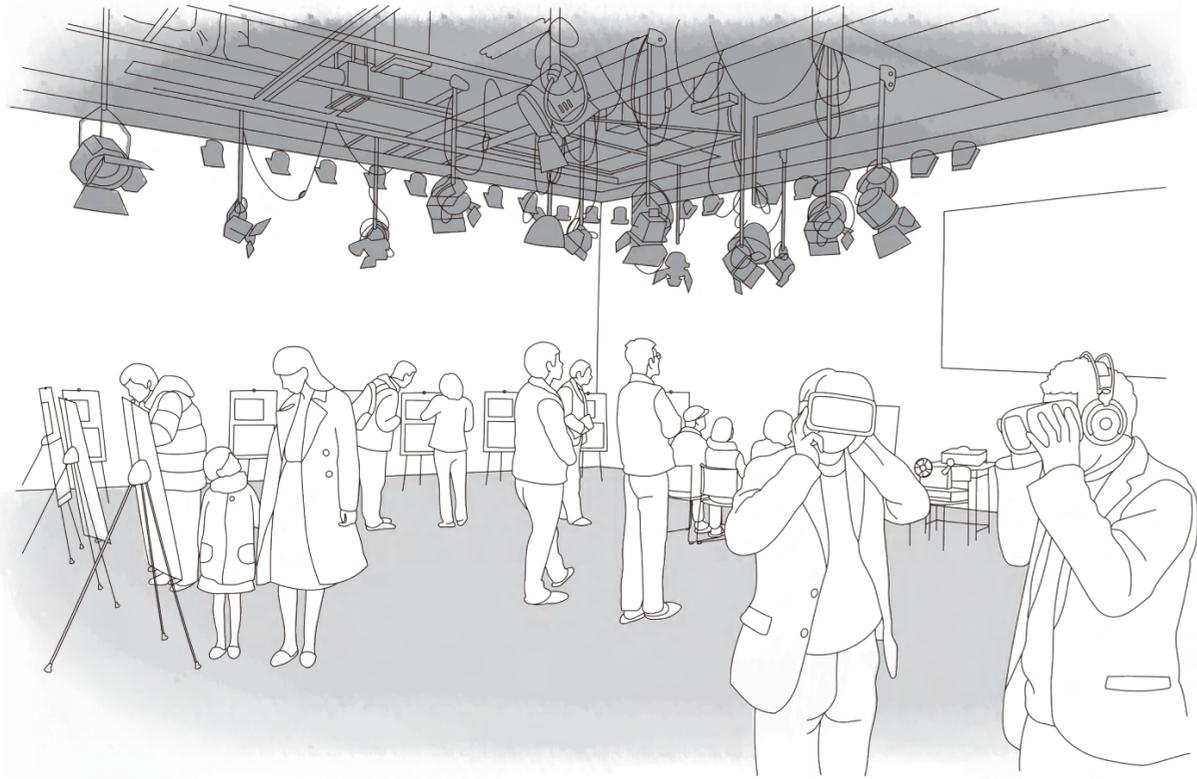
「映像ミュージアム」協力
徳島大学 大学院総合科学教育部 佐原研究室
remo [NPO法人 記録と表現とメディアのための組織]

発行 2017年12月



成果発表会の様子

2017年2月24日(金)、25日(土)の2日間、京都府立大江高校のスタジオにおいて約半年間取り組んできた各プログラムの成果を発表する機会として「映像ミュージアム」を開催しました。大江町のみなさんからご提供いただいた映像を素材とする展示物を通して、スタジオが世代を超えるコミュニケーションの場となりました。会期中、大江町の住民のみなさんを中心に約400名の来場者がありました。



各プログラムの制作過程

2016年8月初旬に京都府福知山市大江町の風土と密接な関係にある、大いなる流れ「由良川」のリーサーチを実施しました。地形、船運、災害、動植物などへの視点を軸に、多くの場へ赴き、たくさんの方と話をする機会を得ました。これをきっかけに各プログラムの構想が具体化し、取り組みがスタートしました。



白黒写真カラー化 2016年9月～ 当時の風景を再現する

高校ではカラー化作業を前に写真提供者である新治貢さんへのインタビューを行いました。白黒写真が撮影された当時の様子や時代的流行などを学習し、カラー化作業に取り組みました。

8ミリフィルム上映 2016年10月～ 個人の物語を共有する

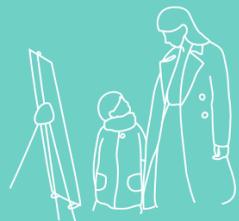
ご提供いただいた8ミリフィルムを鑑賞し撮影当時のインタビュー取材を行いました。映像の鑑賞を通じて蘇る昔の話から個人の物語の豊かさを感じるとともに、公共的・共感的価値を認識しました。



VR映像 2016年11月～ 過去と今をつなげる

VR映像を制作するにあたり、由良川と共にある生活や過去に起こった水害の記憶について取材を進めました。過去と今をつなげるために必要な映像素材や音声データを収集しました。

白黒写真カラー化



大江高校の生徒たちが昔の大江町をとらえた白黒写真をカラー化しました。当日は、実際にカラー化を体験できるワークショップも実施しました。

8ミリフィルム上映



昭和の町並みや暮らしぶりが写された8ミリフィルムを上映しました。また別室ではフィルムを見ながら、参加者同士の思い出を共有する鑑賞会も行いました。

VR映像



由良川の水害を体験できるVR映像を制作しました。インタビューをもとに、川が増水する様子や街が水につかる様子をCGで再現しました。

各プログラムの関連地マップ

